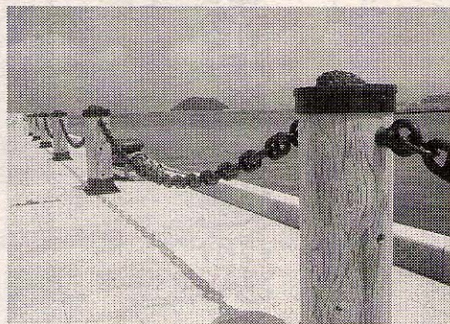


# 木製ボラードの転落防止柵

## 木材生かし人に優しい街づくり

佐賀県唐津市



唐津東港の木製ボラードによる転落防止柵

観光・賑わいの拠点として整備が進められている唐津東港（佐賀県）に、木製ボラード（支柱）と鉄鎖による転落防止柵が採用された。保存処理された杉を丸太形状のまま構造部に使用し、鋳物のキャップ、ベースと合わせたデザインはほかにはないもの。また、市民や来訪者からは、海に近づいてはいけぬという印象を抱かせずに注意喚起を促したいという考え方から、木材の持つ親しみやすさなどの特徴が生かされており、新たな使われ方として注目されている。

唐津市は唐津港の将来の姿を考えるため、市民を中心に民間、行政、専門家が一体となって進める「唐津みなとまちづくり懇話会」を04年度に設置。翌年には地域素案がまとめ

られ、30年スパンの長期計画で唐津西港を物流（ピツネス）拠点に、東港を観光・賑わいの拠点にしていく方向性を決めた。これを受け東港では既に、壱岐フェリー発着場と唐津みなと交流センター（建物外壁に木材を使用）、水際プロムナード（レンガ敷き）、芝生公園（トロッコ

も設置）、07年からは市民による松の植樹なども始まる。ちなみに鉄鎖は退

つている。

ボラードは構造部に福岡県八女地域産の杉30号径×高さ1000ミ、キャップ、ベース部に鋳物が使われている（全体で高さ1100ミ）。鋳物部分は昭和鉄工（福岡県）、木材は九州木材工業（同）のエコアコールドが採用され、両社の共同開発により実現した。今回は第1期工事として25基に7基が設置されたが、最終的には320基のプロムナード部分全体に取り付けられる。今後は佐賀県産杉の活用も予定す

役したばかりの唐津海上保安庁の巡視船「まつら」のものが再利用された。

景観デザインの専門家として懇話会に当初から参画し、ボラードの設計等を担当したのは九州大学大学院工学研究院環境社会部門景観研究室の樋口明彦准教授。

このほかには、大規模災害対応のため耐震強化された岸壁に25号

角の杉（エコアコールド）による車止めを設置。これは荷役時などにフォークリフトで引き抜きが可能で、通常は釣り人や散策者のベンチとしても利用できる。また公園エリアのベンチ、木柵、東港と砂浜をつなぐ木橋などもあり、今後は市内全域に唐津産杉と陶磁器による観光サイン（誘導看板）を設置する計画だ。

角の杉（エコアコールド）による車止めを設置。これは荷役時などにフォークリフトで引き抜きが可能で、通常は釣り人や散策者のベンチとしても利用できる。また公園エリアのベンチ、木柵、東港と砂浜をつなぐ木橋などもあり、今後は市内全域に唐津産杉と陶磁器による観光サイン（誘導看板）を設置する計画だ。